飛田雄一「あそびエッセイ」（その①）

Facebookより 2024年10月26日

●＜その１＞朝鮮語講座の兪澄子先生から聞いた韓国の遊びが強烈だった。

　ハイキングに行く。広場で、５Ｍどの先に線を引く。その線に向かってコインを投げる。その線に一番近いところに投げた人が「総どり」する。このシンプル、大胆、かつ賭博的な遊び、すてきだ。正月に家中でそれをしたことがある。机の端から１０円玉をもうひとつの端に指で飛ばす。その端にいちばん近いのが勝ち。ぎりぎりを狙うとテーブルから落ちてしまう。盛り上がる。

　その「総どり」遊び、ジャンケンバージョンもある。ある青少年プログラムでしていた。メンバーが１００円玉を一枚ずつ持ち、隣の人とジャンケンをする。負けた人は退場、勝った人は２００円となる。更にジャンケンをする。４００円になる。８００円になる。勝ち残った人が奇数になり、対戦相手がいなくなると、すでに退場した人が手に８００円を持って、再チャレンジする。最後に一人が勝利者だ。１００人なら１万円＋αだ。青少年プログラムとしてはどうかと思うが、おもしろかった。

※「遊びシリーズ」エッセイをスタートする。第１回目としては刺激的すぎるエッセイだった。次回以降は、ソフトに。乞うご期待。

●＜その２＞３穴のビー玉ゲーム

　ビー玉あそび。よくやった。むかし、ラムネの瓶にビー玉が入っていた。割って、ゲットしたこともある。

　「３穴」をしていた。地面に小さな穴を手前から３つ掘る。一番遠くの穴に順番にビー球を投げる。穴に一番近い人からスタート。

　穴から、左手の親指小指の間をいっぱい広げる。そして親指を右手小指につないで、ビー玉をくりだす。他人のビー玉に当てれば次の穴に進める。次の穴に転がして入れてもいい。そうして次の穴に進んでいく。

　そして、３穴、２穴、１穴、バックして、２穴、３穴へ。そしたら勝利。他人のビー玉を、総どりできる。

　なんか、ルールが違っているような気もするが、こんな感じである。ネットで、ビー玉あそびを検索しても、この「３穴」はでてこない。これも兵庫区都由乃町、石井町あたりでだけの遊びなのか。

ビー玉に当てるとき、上級者は直撃する。転がすのではない。これが、醍醐味だった。
以上、書いてみたけど、分かってくれた？

●＜その３＞「くちくすいらい」

よく遊んだ。町内でもやった。が、小学校の遠足で塩が原（修法が原）にいったときは規模が大きい。総勢300人ぐらいでやった。
ネットで調べた。あった、うれしい。
「駆逐水雷 ルール」
基本ルール 二組に分かれ、それぞれの組で (a) 戦艦 1名、 (b) 駆逐艦 (c) 水雷艇 各若干名の3種類の役を割り振り、戦艦は敵の駆逐艦を、駆逐艦は敵の水雷艇を、水雷艇は敵の戦艦を撃沈することができ、戦艦が撃沈された（戦艦役が捕らえられた）組が負けとなる。
水雷艇は、戦艦を撃沈すべく攻め込む。でも駆逐艦にタッチされると捕虜となる。
陣地はそれぞれ小高い山。広大な公園でくりひろげられる。捕虜は、それぞれ陣地につながれる。捕虜が多くなると、その列も長くなる。相手側は、防御をかいくぐって、その捕虜の列を空手チョップで切る。捕虜奪還となる。（たしか、自陣に一度戻ってから復帰可能となった）
水雷艇は、すぐに見分けたつくように、手で野球帽マーク（たしか）。駆逐艦マークは忘れた。
ほんと、塩が原の攻防はすごかった。いま、それをやったら、やばい。足はもつれ、転倒まちがいない。すぐに捕虜になり、空手チョップで切られても、逃げる気がおこらないだろう。
（写真は、アシスト自転車で塩が原へ。2020年4月。）

●＜その４＞「ようちん」

「ようちん」、これも遊びだ。「ようちん」、ネットで調べても、あそびの「ようちん」はでてこない。「ヨードチンキ」はでてくる。ヨードチンキ、水銀が含まれていると製造中止なったのかと思っていたら、今も販売しているようだ。その水銀入りは「赤チン」だったかな？　これは本論と関係がないので、話を進める。
「ようちん」は、ボルト、ナットのナット。しかし、ナットのようにボルトを締めるものではなく、平らな４、５センチほどの鉄の輪っかだ。どなたか、名前を教えて。
どうして遊ぶか。３、４メートル先に「べったん」を２、３枚重ねたものが、４、５個ある。そのべったんに、ようちんを投げる。転がしてもいい。そして、そのべったんの上にようちんがのれば、勝ち。そのべったんをもらえる。単純なルールだ。
「べったん」？　標準語では「めんこ」というらしい。絵の描いたカードだ。野球が多

かった。
　べったん、普通は、高いに地面たたきつけ、相手のべったんを風圧でひっくり返したら勝ち、というものだ。ぼくらは、もっと高級な「ようちん」で「べったん」をとりあう遊びをしていたのだ。
（写真は、べったん、またの名はめんこ）

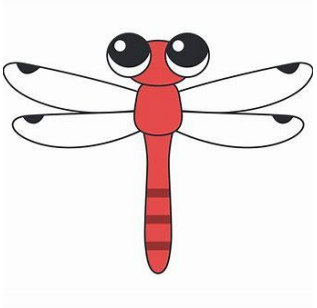
●＜その５＞「釘さし」

　怖そうな遊びだ。２人でするときは「一」、３人でするときは「十」、それ以上のときは適当に地面に書く。
　そして、各自、釘を持つ。５寸釘だ。地面に突き刺してうまく突き刺されば、その場所と「一」の端とを５寸釘で線をひく。成功すれば何回でも釘を刺す。線をつないでいって、相手方が逃げられないように囲む。そして、最後に、自分の1周前の線の上に釘をさせば相手は逃げられなくなり勝利する。5寸は、15.15センチとのこと。だいぶ長い。
　ルールを書きながらなかなか説明がむつかしい。分っていただけただろうか？
　5寸釘を地面に刺すのがけっこうむつかしい。技術がいる。ときどき、家から大工道具の「錐（きり）」をもちだして使う。錐が痛むので内緒だ。でも、錐では地面に刺すのが容易すぎて、勝負としては興味がうすれる。
　むかしは、どこにでも地面があった。いまは、ない。こんな遊びもできない。さびしい。

●＜その６＞「Sケン」

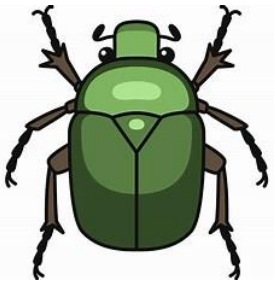
　地面に大きな「S」を書く。上下５M、左右３Mぐらい。参加人数、だいたい偶数。
　それぞれ隊長を決める。その他の兵隊が出陣する。「S」の外では、ケンケン（片足）でないといけない。敵の兵隊を見つけたら、両手を組んで体当たりする。相手がこけたり、両足をついたりしたら、その兵隊は死ぬ。そして、敵陣に攻め込んで隊長にタッチしたら、勝ち。
　これは、書きやすかった。これ以上シンプルなルールは、ない。
　Sケンよりも更に過激な遊びもあった。名前は忘れた。攻撃側と守備側が分かれている。大きな島（５M×８M？）に出口がひとつ。島のまわりに小さな島がいくつかある。島では、両足でＯＫ。それ以外（海）では、片足。Sケンのように、体当たりする。最後に敵の大将にデンすれば勝利だ。このケンケンをしすぎたのか、先日の運動機能テストで、私は右足の筋肉量が多い。

●＜その７＞トンボとり



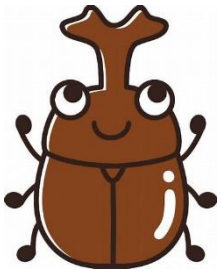
　石井川（神戸市兵庫区）沿いの道でよくとった。車はあまり通っていなかった。トンボは、人間と一定の距離をとる。人間の頭の４Ｍ？上を飛ぶ。人間が頭をさげるとトンボの航路もさがる。
　網でとることもあったが、釘と紐でとった。二本の小さな釘を紐でつなぐ。そんな長い紐でなくていい。
　それをぐちゃぐちゃにして、トンボの航路の前に投げる。トンボは虫と思って飛びかかる。紐と釘にからまって落下する。つかまえる。そううまくいくものではないが、ときどきひっかかった。打率は、一割以下だった。

●その８＜カナブンとり＞



　カナブン。ネットでしらべるとカナブンとコガネムシは違うらしい。でも、いまは、どうでもいい。
　ふつうに今でも、街中をとんでいる。最近のカメムシのように。
　またネットに、カナブン駆除の方法、なんてのがある。許せない。なんで駆除するのか。
　このカナブンを大量にとる。大量だ。１００匹またはそれ以上、一気にとる。
　幼少期に近くに石井の森があった。昆虫のすきな蜜のでる木がある。そこにカブトムシはいないが、カナブンがたくさんいる。二本、木があった。
　一本の木で、２、３０匹とる。そして、もう本の木で２、３０匹とる。それを２、３回くりかえす。虫かごに入りきらなきほどとれる。
　そのあと、どうしたのだろうか？　記憶にない。
　紐をくっつけて飛ばして遊んだことはある。「虫めでる王子様」か？　紐を、羽根と頭のあいだに無理やりつつける。カナブンは痛かっただろう。

●その９＜カブトムシとり＞



　石井の森から更に山に登る。朝、カブトムシがとれるという。それらしい木の根元を足でける。ときどき、カブトムシが落ちてくる。これは、打率がほぼゼロに近かった。

●その１０＜バッタ＞とり

バッタはどこにでもいた。

大きいバッタ。空を飛ぶとめだつ。着陸時点をみさだめて、捕まえる。

足をもつと、バッタがばたばたとする。人間がみるとおじきをしているように見える。おじぎバッタと言っていた。

かわいそうなことをした。